

平成 25 年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区： オホーツク地区
- 2 実践報告学校名： 遠軽町立白滝小学校
- 3 報告者職・氏名： 校長 梁瀬 邦之
- 4 キーワード： 白滝ジオパーク「石育」学習のすすめ

地域を知り、地域と共に歩む教育活動の推進

～白滝ジオパーク・「石育（いしいく）」学習のすすめ～

1 はじめに

本校は北海道大雪山系の東側に位置し、山々に囲まれた自然豊かな地域である。高規格道路「旭川・紋別道」の白滝⇄旭川間全面開通により、道央自動車道と直結した。都市間バス、さらに、JR石北本線も通っており、山間の町だが、旭川まで60分と交通の便は非常によい所である。

白滝地区は、国内最大級の黒曜石原産地で、その埋蔵量は世界的規模と言われている。特に白滝地区の赤石山を中心とした地域では、火山の噴火活動によってできた黒曜石の塊が地表に露出した4か所の露頭を、白滝市街地からわずか15分ほどの距離で見ることができる。



本校では、地域資源を生かした、食育・木育の教育を進めてきたが、平成21年度より、遠軽町役場ジオパーク推進課・遠軽町埋蔵文化財センターのご指導のもとに『ふるさとを知る石育』活動として身近にある黒曜石の学習を進めている。

2 研究主題設定の理由

平成23年度から新学習指導要領が全面実施され、この中では体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した、課題解決力の育成的を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫することが求められている。

遠軽町では、平成22年「白滝黒曜石遺跡群」が日本ジオパーク（地質遺産）に登録された。そこで本校では、今までの食育・木育の学習の成果を生かし、地元の学校として『石とふれあい、石に学び、石と生きる』ことを本年度の重点目標とし、問題解決的な能力の育成と、豊かな心を育むために、白滝黒曜石ジオパーク活動を取り入れることにした。

「石育（いしいく）」という言葉は、白滝小学校で作られた言葉である。食育、木育と同じように、身近にある黒曜石を通して、多くの人々と学び、体験活動を行い、自分から取り組む「自主性・自発性」と、活動の中から湧き出る「思いやり」の心を育てていくことを最終の目標としている。

3 ねらい

- (1) 白滝黒曜石ジオパーク活動を地域と一体となり活動を行うことにより、問題解決的な能力の育成と豊かな心を持つ児童を育成する。
- (2) 食育、木育同様に「石育」を地域に根付かせ素晴らしいふるさとを愛する児童を育てる。
- (3) 学校・保護者・地域・教育関係機関の綿密な連携を図り、ジオパーク活動の一翼を担う。

4 教育課程における位置付け

全校で取り組む共通の取組として押さえ、生活科、総合的な学習の時間、理科、社会科として位置付け活動している。(年間 10 時間程度)

5 主な活動の様子

(1) 黒曜石を身近に感じる『お話』(全校)

〔白滝黒曜石の3つのキーワード〕

- ①白滝地域は「日本で一番」になるくらい、黒曜石がある
- ②黒曜石は、昔は「ナイフや包丁・針」のような役目をしてきたようだ
- ③白滝のように、学校から車ですぐの所に、「黒曜石の山」があるのは珍しい

(2) 春の遠足 (黒曜石露頭の探索・6年生)



【初春の八号沢露頭】

(3) ジオパーク啓発活動 (6年生修学旅行にて)



【札幌駅での啓発活動】

(4) 白滝黒曜石ジオパーク大使への任命 (6年生)

(5) 黒曜石石器作り体験 【槍先に見たてた石器づくり】(4年生以上)



(6) 石器も利用したエゾ鹿カレー作り (3年生以上)



(7) 白滝小学校開校 100 周年記念公開研究会開催 ⇒「石育」学習の公開 平成 24 年 11 月 30 日

6 今後に向けて

- (1) 「石育」の教材化
- (2) 地域資源の更なる有効活用とイベントの開催
 - ・遠軽町小中高校生による赤石山コンサート
 - ・全日本小中学生石器作り選手権大会
 - ・白滝ジオパーク検定
 - ・赤石山ジオパーク児童会生徒会サミット etc

7 おわりに

「石育」という言葉は歩き始めたばかりである。しかし、これからの取り組みによって、『白滝でしかできない石育から、どこでも・誰でもできる石育へ』と発展させたいと考えている。